

令和7年9月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和7年9月号」をお送りいたしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

八戸港に水揚げされる船凍キンメダイを使った水産加工品4商品が、八戸市水産物ブランド認証制度に基づく認証商品として認定を受けました。

認証されたのは、八戸魚市場の「天皇海山の金目鯛缶詰」のしょう油煮とオリーブオイル煮、ディメールの「金目鯛の棒寿司」、開洋漁業の「金目鯛のあぶりハム」。いずれも昨年度開発された水産加工品です。

船上で冷凍する船凍キンメダイは北太平洋の天皇海山海域が漁場で、現在、八戸港では順調な水揚げが進んでいます。

オンラインショップのほか8baseで購入可能な商品もありますので、是非お試しください。

▼八戸市水産物ブランド認証制度について（八戸市ホームページ）

https://www.city.hachinohe.aomori.jp/soshikikarasagasu/suisanjimusho/1_1/18586.html

◎皆様へのお願い

所属、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 03-3261-8973 / FAX 03-3239-6723

E-mail tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

令和7年8月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

八戸レポート

9月号

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市が対策チーム 公共施設の省エネ推進へ
(2)	米価高騰やコメ不足を受け 八戸市と生産者が意見交換 「語る会」初開催
(3)	美術館スタッフや図書館一日館長など 中高生 公共施設の業務体験
(4)	札幌で「はちのヘフェア」 誘客へんぶりでアピール
(5)	八戸中心街 街路再整備 2年前倒し、宮下知事意向
(6)	八戸で物流問題懇親会 コンテナ船使い初の試験輸送へ

【産業】

記事	概要
(7)	サーモン養殖・オカムラ食品工業（青森）八戸市に物流拠点
(8)	八戸沿岸カキの養殖試験8か月経過 「順調に成長」手応え
(9)	改良12年 八戸酒造が酒米開発 陸奥八仙250周年記念ボトル販売
(10)	地域おこし協力隊・津久井さん ワイナリー来春開設へ
(11)	東急ストア、シン八戸と連携 八戸産の朝取り鮮魚 都内で販売

【地域】

記事	概要
(12)	外国クルーズ船「オデッセイ」八戸に寄港 県内初、最大規模
(13)	田名部氏、ライオンズ国際協会の国際理事に 県内初の選出、国内最年少
(14)	八戸高専、脳卒中当事者団体と共同開発 脳卒中リハビリにVR
(15)	新井田川灯籠流し ミニサイズで再現
(16)	八戸花火大会 雨上がりハマに大輪
(17)	マチニワでゲームフェス 多彩なゲーム 対抗戦など盛り上がる

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	三社大祭連日盛況 若手活躍 明るい兆し
(19)	ヴァンラーレファン感謝祭 サポーターと交流 絆強く
(20)	全国スポーツ流鏑馬大会 境内疾走、人馬一体

【行政】

記事	
(1)	<p>八戸市が対策チーム 公共施設の省エネ推進へ</p> <p>八戸市は、市の公共施設から排出される温室効果ガスの削減につなげようと、施設状況などを調べて省エネルギー対策を検討する庁内横断のプロジェクトチームを結成した。市は7月末に、市の事務事業に伴い排出される温室効果ガスの削減を目指す「市地球温暖化対策実行計画事務事業編（通称うみねこプラン）」を改訂。2013年度の排出量を基準に、2030年度までに50%削減する目標を掲げている。メンバーは8月6日、熊谷市長に結成を報告し「専門的な知見から省エネを図り、実効性を高めていく」と意気込みを語った。</p>
(2)	<p>米価高騰やコメ不足を受け 八戸市と生産者が意見交換 「語る会」初開催</p> <p>米価高等やコメ不足などを受け、八戸市と市農業委員会は8月7日、市庁で大規模生産者と国、県、市の関係者が意見交換する「市持続的な米生産について語る会」を初めて開いた。国が減反（生産調整）から増産に転換する方針を示したことについて、生産者からは「増産する上では、ほ場整備が必要」「小規模農家にも助成を」などの意見が上がった。市は11月ごろにも2回目の会合を開催し、意見を集約した上で27年度の国の水田政策の見直しに向けて要望活動を行うほか、市の農業施策にも反映させる意向。</p>
(3)	<p>美術館スタッフや図書館一日館長など 中高生 公共施設の業務体験</p> <p>八戸市の中高生が中心街の公共施設でスタッフや館長業務に当たる「マチナカまるっと1日体験」が行われた。8月7日に行われたスタッフ体験には生徒15人が参加。4チームに分かれ市美術館、「はっち」、YSアリーナ八戸、八戸ブックセンターの4施設を巡り、運営業務を体験した。また、市立図書館の1日館長体験には高校生2人が参加。市庁で行われた寄付贈呈式に熊谷市長らと出席し、司会を務めるなどした。1日館長は8日に「はっち」、20日には美術館でも行われ、参加した生徒らは、舞台裏の見学や来館者の案内といった体験を通じ、仕事のやりがいや楽しさに触れた。</p>
(4)	<p>札幌で「はちのヘフェア」 誘客へえんぶりでアピール</p> <p>八戸市とVISITはちのへは8月9、10日の両日、札幌市の北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）の前庭で「はちのヘフェア」を開いた。札幌市でのはちのヘフェアは初。特設ブースでは地酒や南部せんべい、サバやリンゴといった農水産物の加工品などを販売。観光パンフレット配布や八戸に関するアンケートも実施。9日には熊谷市長もトップセールスを行うなど、八戸の食や観光を発信した。また、大久保えんぶり組による摺りや祝福芸が披露され、さらなる誘客に向けて伝統文化をアピールした。</p>
(5)	<p>八戸中心街 街路再整備 2年前倒し、宮下知事意向</p> <p>八戸市中心街のメインストリートとなっている国道340号の三日町・十三町区間を巡り、宮下知事は8月18日、車道や歩道の再整備事業の開始時期を、市が想定している2029年度から2年前倒し、27年度に着手する意向を示した。市はメインストリートを「人中心」の空間へ転換しようと、車道の両側に荷さばき用の停車スペースを確保し、にぎわいを創出する「ストリートデザインビジョン」を策定。再整備は実現に欠かせない。県が管理する同区間の早期再整備が示されたことで、同ビジョンの実現へ大きく前進することになる。</p>

	八戸で物流問題懇親会 コンテナ船使い初の試験輸送へ
(6)	八戸市は8月22日、「2024年問題」を受け八戸地域物流問題懇談会の本年度初会合を開いた。八戸港で複数の物流手段を組み合わせて持続可能な輸送を目指す「モーダルコンビネーション」の実現に向け、八戸港国際物流拠点化推進協議会がコンテナ船を使った初の試験輸送を実施することが報告された。普段は製品を陸上輸送する企業を対象に、八戸港を発着するコンテナ船の海上輸送を試してもらうことで、同港の利用拡大につなげるのが狙い。11月上旬から来年1月下旬にかけて3回程度実施する。

【産業】

記事	概要
	サーモン養殖・オカムラ食品工業（青森）八戸市に物流拠点
(7)	サーモン養殖などを手がけるオカムラ食品工業（青森市）は8月5日、倉庫や運輸業を手掛ける共同物流サービス（八戸市）と連携し、県内で養殖した「青森サーモン」の物流拠点を八戸市に集約すると発表した。共同物流サービスは2027年稼働を目指し、北東北で初となる氷点下35度～氷点下40度を保つ「セミ超低温冷凍倉庫」を建設。稼働後は、同倉庫にサーモンを保管し国内外に出荷する。八戸港を活用しトラックから船舶に輸送手段を切り替えるモーダルシフトも推進する。
	八戸沿岸カキの養殖試験8か月経過 「順調に成長」手応え
(8)	八戸沿岸で進められているカキの養殖試験で、実施者である八戸市の八戸みなど、市川両漁協は8月8日、昨年12月の養殖開始から約8か月経過したカキのサイズを測定した。沖合の養殖設備から測定用のカキが入ったバスケットを一時的に回収し、約90個のサイズを確認したところ、5月の測定時から2倍以上の1個当たり40～50g台が多く、3倍の60gを超えも複数確認。関係者は「順調に成長している」と手応えを示した。測定を終えた種苗は、市川漁港内で養生していた追加投入分の種苗約1,600個と一緒に、再び沖出した。
	改良12年 八戸酒造が酒米開発 陸奥八仙250周年記念ボトル販売
(9)	八戸市の八戸酒造はオリジナルの酒造好適米を開発し、その酒米を使用した「陸奥八仙 創業250周年記念ボトル」を販売している。オリジナルの酒米は青森県産業技術センター農林総合研究所の協力で開発。改良には12年ほど要し、品種の掛け合わせや選抜などを繰り返して2024年度に完成。今後、酒米を命名し、書類審査や現地調査などを経て品種の正式登録を目指す。記念ボトルは、華やかな香りとすっきりした仕上がり。価格は720ml入り2,750円（税込み）。インターネットなどで購入可能。
	地域おこし協力隊・津久井さん ワイナリー来春開設へ
(10)	八戸市地域おこし協力隊員の津久井章弘さんが、八戸市中心街に近い柏崎1丁目に市内3か所目となるワイン醸造所を開設する計画を進めている。小売り機能もある飲食店内に整備するのが特徴で「主にヤマブドウを使ったワインを造り、八戸の特産品づくりを進めていきたい」と意欲を示す。津久井さんは市の八戸ワイン産業振興プロジェクトに関わっており、来年2月に3年間の任期を終了する。ワイナリーでは自家製ヤマブドウをワインに加工するほか、八戸の伝統野菜や西洋野菜を使った料理やパン、菓子を販売し、地域密着型の6次産業化を目指す。

	東急ストア、シン八戸と連携 八戸産の朝取り鮮魚 都内で販売
(11)	東京都や神奈川県を中心にスーパーを展開する東急ストア（東京）は8月29日、都内の3店舗で当日朝に八戸沿岸で漁獲された鮮魚を販売する取組を始めた。地元鮮魚のブランド化を目指す八戸水産価値向上実行委員会（愛称・シン八戸）が、魚の提供や神経締め処理などで協力。鮮度を保持したまま新幹線に乗せ、当日午後に各店舗に配達。この日、プレッセプレミアム東京ミッドタウン店では、ヒラメやタイなど4魚種を主に刺し身で販売。買い物客は鮮度抜群の魚に高い関心を示し、目当ての商品を買い求めていた。東急ストアは9月19日、10月17日にも八戸産の朝取り鮮魚を販売し、11月以降も月に1度の取扱いを予定している。

【地域】

記事	概要
	外国クルーズ船「オデッセイ」八戸に寄港 県内初、最大規模
(12)	バハマ船籍のクルーズ船「オデッセイ」（乗客定員650人、24,344t）が8月8日、八戸港に寄港した。県内初寄港で、これまで八戸に入港した外国クルーズ船では最大規模。船は米国やオーストラリアなどからの乗船客を乗せて、午前7時半ごろ八戸港に入港。県や市の関係者、英会話を学ぶ中高生が出迎えた。乗船客は個々に種差海岸や八戸市内の博物館などに向かい、地域の自然や文化に触れたほか、地元住民と交流を楽しんだ。
	田名部氏、ライオンズ国際協会の国際理事に 県内初の選出、国内最年少
(13)	奉仕団体ライオンズクラブ（LC）国際協会の国際理事として、元日本ライオンズ理事長で八戸市の総合建設業「田名部組」の代表取締役CEO（最高経営責任者）である田名部智之氏が選出された。県内初の選出で、国内最年少での就任。田名部氏は2002年に八戸LCに入会。LCを束ねる日本ライオンズで理事長を務め、新クラブの設立や会員数の増加に尽力してきた。国際理事には県内をはじめ東北地方の各地区から推薦を受けて立候補した。任期は2年間。
	八戸高専、脳卒中当事者団体と共同開発 脳卒中リハビリにVR
(14)	脳卒中の当事者団体「One Feels」（佐々木三之代表）と八戸高専電気情報工学コースの学生らが、VR（仮想現実）を活用した脳卒中後遺症のリハビリ研究に共同で取り組んでいる。後遺症で半身まひのある人が、専用のゴーグルを使用してVR空間で手を動かして食事などの動作を疑似体験できるソフトを開発中。鏡を使って行うリハビリ「ミラーセラピー」を参考に、本来は動かない手をVR上では動くように錯覚させ、回復を促す仕組み。数あるVRリハビリ研究の中で、当事者団体が取り組む例はないという。昨年度からの3か年計画で完成を目指しており、将来的には当事者同士のコミュニケーションなどにも役立てたい考え。
	新井田川灯籠流し ミニサイズで再現
(15)	送り盆の8月16日、八戸市小中野の常現寺で「小灯籠流し」が初めて開かれた。夏の風物詩として親しまれた「新井田川灯籠流し」が、担い手の高齢化や財源不足などで終了したことを受け、同寺が独自に開催。新井田川に見立てた幅60cm、長さ20mの水路を境内に設け、出店も並んだ。約500基のミニ灯籠には、檀家の人々が思い思いのメッセージを書き入れ、揺らめく明かりを見つめながら先祖をしのんだ。

	八戸花火大会 雨上がりハマに大輪
(16)	第45回八戸花火大会が8月17日、八戸市の館鼻岸壁で開かれた。今年は「昭和100年」に当たることから、時代を彩ったヒット曲に合わせて花火を打ち上げるプログラムなどで観客を魅了。共催する八戸青年会議所のスローガン「ラブはちのへ」誕生50周年を記念し、観客があらかじめ渡された青とピンクの袋をライトで照らす企画では幻想的な雰囲気となった。この日は、夕方に強い雨となったものの、大会開始とともにやみ、ハマに咲き誇った約7,000発の色彩豊かな大輪が港町の夏の夜空を鮮やかに染め上げた。
(17)	マチニワでゲームフェス 多彩なゲーム 対抗戦など盛り上がる 八戸市で5回目となるゲームイベント「BAYOND THE REGION GAMING FESTIVAL Lv.5」が8月30、31日の両日、開催された。これまで会場としていたフラット八戸が改修中のため、地域に定着してきたイベントの流れをたやしたくないと今年はマチニワで実施。主催する電音エンジニアリング（東京）の特別チームが映像、音響、照明で迫力のある会場演出を実現し、学校対抗戦や企業対抗戦などの熱戦が大型ビジョンで繰り広げられた。また、ゲームの体験コーナーや音響メーカーなどの企業ブースも並び、来場者は奥深いゲームの世界を堪能した。

【文化・スポーツ】

記事	概要
	三社大祭連日盛況 若手活躍 明るい兆し
(18)	八戸三社大祭が7月31～8月4日に開催され、盛況のうちに閉幕した。日程が週末に重なり好天にも恵まれたため、中心街は連日多くの人であふれた。祭りの担い手不足が課題となる中、山車制作では若手の活躍や未経験者の参加といった明るい兆しが見られた。子どもが祭りに興味を持つきっかけづくりにも注力するなど、伝統継承の体制構築が進む。また、13～15日には、お盆期間中の帰省者ら向けの山車展示が、旧柏崎小跡地の山車制作展示施設と長者まつり広場で行われた。
(19)	ヴァンラーレファン感謝祭 サポーターと交流 絆強く サッカーJ3のヴァンラーレ八戸は中断期間中の8月10日、八戸市プライマーズスタジアムで「2025ファン感謝祭～真夏の大運動会～」を開催した。約500人のサポーターが集まり、250人が競技に参加。4つの組に分かれて二人三脚や手つなぎドリブルリレー、借り物競走などを行い、選手たちがサポーターと共に試合に劣らぬ熱量で競いながら交流。悲願のJ2昇格に向けて絆を深めた。チームは7月26日のホーム戦で、クラブ史上初の首位に浮上している。
(20)	全国スポーツ流鏑馬大会 境内疾走、人馬一体 全国スポーツ流鏑馬八戸大会が8月11日、八戸市の櫛引八幡宮で行われた。10回目となる今年は、記念御前試合として、南部家46代当主の南部利文さんが来場。全国から騎手34人が参加し、疾走する馬の上から境内に置かれた3つの的に矢を放って的中数とタイムを競った。大会は個人、団体、勝負戦に加え、18歳以下の若者が選手として出場し運営も担う「チャレンジマッチ」が行われた。息の合った人馬一体の技に、見物客は盛んな拍手を送った。

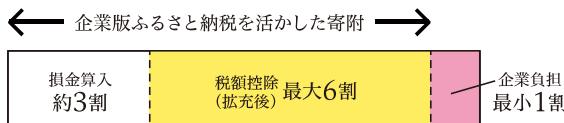
企業版ふるさと納税の3つの魅力

① 税制上の優遇が受けられる

損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、税額控除(寄附額の最大6割)により、最大で寄附額の約9割が軽減されます。

② 社会貢献

SDGsやESGへ寄与できます。



③ 自社PR

ご寄附をいただけた企業様を八戸市HPとSNSでご紹介いたしますので、企業様のPRに繋がります。

申込み方法

- 電話
- メール
- 二次元バーコード

申込み・お問合せ先

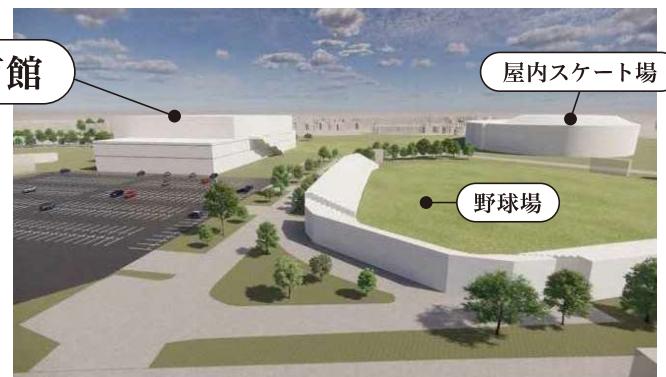
政策推進課
企業版ふるさと納税担当
TEL:0178-43-9233
Email:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp



[寄附受付事業]

●新体育館の建て替え

スポーツやイベントなど、市民の多様な活動の場として、年間約37万人に利用されています。竣工から半世紀以上経過していることや、時代の移り変わりとともに変化する多様なニーズに応えるため、計画的に準備を進めています。



●八戸市の魅力発信

八戸市のマスコットキャラクター「いかづきんず」や公式SNSなどを活用して、当市の魅力を広く発信しています。

- 魅力を発信することで
- ◎市民の地元に対する愛着や誇りを醸成したい。
 - ◎国内外の人々の当市への関心を高めたい。
 - ◎交流人口や定住人口の創出・拡大につなげたい。



●八戸産ぶどうを活用したワイン産業振興

農業振興のみならず、商工業や観光業にも繋がる「ワイン産業」の振興を目指しています。

●創業・事業継承の支援拠点運営

創業及び事業継承の支援拠点を設置し、専門家による相談対応やセミナー開催等により、創業希望者等を支援しています。

●八戸市ブックスタート事業

八戸市在住の赤ちゃんとその保護者を対象に、おすすめブックリストや絵本をプレゼントしています。

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。→ 
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

送付先・お問合せ先

広報統計課 ふるさと寄附金担当
〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1
TEL:0178-43-2319
FAX:0178-47-1485
Email:furusatotax
@city.hachinohe.aomori.jp

インターネット

- 下記5つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



ふるなび

JRE MALL



Amazonふるさと納税



八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っています。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いします。

また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい！」「八戸が大好き！」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください！



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。（控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。）

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。



八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 大西 伸一郎 [主査] 斎藤 千聖 [事務員] 浜井 章代



八戸市
Hachinohe City